

# Veritas NetBackup™ Appliance SNMP トラップリ ファレンスガイド

リリース 3.1 および 3.1.1

# Veritas NetBackup™ Appliance SNMP トラップリファレンスガイド

マニュアルバージョン: 3.1 および 3.1.1

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供され、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 以下の「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となり、Veritas による納品が内部設置型またはホスト型のサービスのいずれであるかは問いません。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
500 E Middlefield Road  
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

# テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。テクニカルサポートの主な役割は、製品の機能に関する特定の問い合わせに対応することです。テクニカルサポートグループでは、オンラインのナレッジベース用のコンテンツも作成しています。テクニカルサポートグループは弊社のほかの部門と協力して、ユーザーの質問にすばやくお答えします。

サポートする内容は次のとおりです。

- 任意の規模の組織に対応する、適切な量のサービスを柔軟に選択できるさまざまなサポートオプション
- 迅速な対応と最新の情報の提供を可能にする電話や Web ベースのサポート
- ソフトウェアアップグレードを配信するアップグレード保証
- 地域の業務時間または 24 時間 365 日ベースで購入できるグローバルサポート
- アカウント管理サービスなどのプレミアムサービス

サポート内容について詳しくは、次の URL から Web サイトにアクセスしてください。

[www.veritas.com/support](http://www.veritas.com/support)

すべてのサポートサービスは、サポートについての同意事項とその時点で最新の企業テクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

## テクニカルサポートへの連絡

現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

[www.veritas.com/support](http://www.veritas.com/support)

テクニカルサポートに連絡する前に、製品のマニュアルに一覧表示されているシステム要件を満たしていることを確認します。また、問題を再現する必要がある場合には、問題が発生したコンピュータを使用できる必要があります。

テクニカルサポートに連絡するときは、次の情報が使用できるようにしてください。

- 製品のリリースレベル
- ハードウェア情報
- 使用可能なメモリ、ディスク容量および NIC の情報
- オペレーティングシステム
- バージョンおよびパッチレベル
- ネットワークポロジ
- ルーター、ゲートウェイおよび IP アドレスの情報

- 問題の説明:
  - エラーメッセージとログファイル
  - テクニカルサポートに連絡する前に実行したトラブルシューティング
  - 最近のソフトウェア構成の変更およびネットワーク変更

## ライセンスおよび登録

製品の登録またはライセンスキーが必要な場合には、次の URL にあるテクニカルサポートの Web ページにアクセスします。

[www.veritas.com/support](http://www.veritas.com/support)

## カスタマーサービス

カスタマーサービスの情報は次の URL で利用できます。

[www.veritas.com/support](http://www.veritas.com/support)

カスタマーサービスは、次の問題のような技術的でない質問に利用可能です。

- 製品のライセンスまたはシリアル化に関する質問
- 住所または名前変更のような製品登録の更新
- 製品の一般情報（機能、対応言語、地域の取り扱い業者）
- 製品の更新およびアップグレードについての最新情報
- アップグレード保証およびサポート契約についての情報
- テクニカルサポートのオプションに関するアドバイス
- 発売前の技術的なことではない質問
- CD-ROM、DVD、またはマニュアルに関連した問題

## サポート契約のリソース

既存のサポート契約について弊社に連絡する場合には、次のとおり地域のサポート契約管理チームに連絡してください。

世界共通（日本を除く）

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

# 目次

テクニカルサポート .....	4	
<b>第 1 章</b>	<b>概要</b> .....	8
	SNMP について .....	8
	SNMP ポーリングについて .....	9
	SNMP トラップの例 .....	9
	MIB (Management Information Base) について .....	9
	[設定 (Settings)]>[通知 (Notification)]>[アラートの構成 (Alert configuration)] .....	10
	警告の構成の設定の構成 .....	15
	電子メール通知について .....	15
	このマニュアルについて .....	16
<b>第 2 章</b>	<b>SNMP ハードウェアトラップ</b> .....	17
	vrtadapterTrap .....	18
	vrtsbbuTrap .....	19
	vrtscconnectionTrap .....	20
	vrtscpuTrap .....	20
	vrtsdiskTrap .....	21
	vrtsfanTrap .....	23
	vrtsfirmwareTrap .....	23
	vrtsnetworkcardTrap .....	23
	vrtspartitionTrap .....	24
	vrtspowerTrap .....	25
	vrt RAIDgroupTrap .....	25
	vrtstoragestatusTrap .....	27
	vrtssystemName .....	28
	vrtstemperatureTrap .....	28
	vrtsvolumeTrap .....	29
	vrtsclosurediskTrap .....	30
	vrtsclosurefanTrap .....	31
	vrtsclosurepowerTrap .....	32
	vrtsclosuretemperatureTrap .....	32
	vrtsdimmTrap .....	33
	vrtsiscsiTrap .....	34

## 付録 A

vtsethernetTrap .....	35
MIB (Management Information Base) ファイルの コンテンツ .....	36
MIB (Management Information Base) ファイルについて .....	36

# 概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [SNMP について](#)
- [\[設定 \(Settings\)\]>\[通知 \(Notification\)\]>\[アラートの構成 \(Alert configuration\)\]](#)
- [電子メール通知について](#)
- [このマニュアルについて](#)

## SNMP について

SNMP は、ネットワークデバイス間における管理情報の交換を支援するアプリケーション層プロトコルです。構成に応じて、伝送制御プロトコル (TCP) またはユーザーデータグラムプロトコル (UDP) を使います。ネットワーク管理者は、SNMP を使うことで、ネットワークパフォーマンスの管理、ネットワーク上の問題の検出と解決、ネットワーク拡張の計画を実行できます。

SNMP はマネージャモデルとエージェントモデルに基づいています。このモデルは、マネージャ、エージェント、管理情報データベース、管理対象オブジェクト、ネットワークプロトコルで構成されています。

マネージャは、ネットワーク管理者と管理システム間のインターフェースを提供します。エージェントは、マネージャと管理対象の物理デバイス間のインターフェースを提供します。

マネージャとエージェントは、MIB (Management Information Base) と、比較的数の少ないコマンドセットを使って情報を交換します。MIB は、状態や説明といった個々の変数を枝の葉として表現するツリー構造で編成されています。数値タグまたはオブジェクト識別子 (OID) によって、MIB と SNMP メッセージの各変数が一意に識別されます。

NetBackup Appliance 3.1 および 3.1.1 では SNMP バージョン 2 がサポートされます。

## SNMP ポーリングについて

SNMP ポーリングにより、ユーザーは SNMP マネージャなどの SNMP ツールを使用して、アプライアンスの状態情報を監視できます。

SNMP ポーリングはデフォルトでは無効ですが、NetBackup Appliance Shell Menu コマンドを使用して有効にできます。

コマンドについて詳しくは、『NetBackup アプライアンスコマンドリファレンスガイド』を参照してください。

## SNMP トラップの例

次に、アプライアンスに SNMP が構成されている場合に生成される SNMP トラップの例を示します。この例は、NetBackup 5230 Appliance の RAID グループ向けです。

```
.iso.org.dod.internet.mgmt.mib-2.system.sysUpTime.0:
TimeTicks: 20 hours, 24 minutes, 41 seconds.:
.iso.org.dod.internet.snmpV2.snmpModules.snmpMIB.snmpMIBObjects.
snmpTrap.snmpTrapOID.0: Object ID: .1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.9:
.iso.org.dod.internet.private.enterprises.veritassoftware.products.
applianceMonitoringMib.systems.vrtssystemName:
i89-eng138.cdc.veritas.com:
.iso.org.dod.internet.private.enterprises.veritassoftware.products.
applianceMonitoringMib.systems.vrtsraidgroupTrap:
{"appliance_1_raidgroup_-_enclosure id": "-",
"appliance_1_raidgroup_-_type":
"RAID-6","appliance_1_raidgroup_-_wwid"
: "-", "appliance_1_raidgroup_-_capacity": "4.54TB",
"appliance_1_raidgroup_-_name": "Controller 0 VD 0",
"appliance_1_raidgroup_-_state": "Warning",
"appliance_1_raidgroup_-_errorstatus": "2",
"appliance_1_raidgroup_-_all hotspares available": "Yes",
"appliance_1_raidgroup_-_status": "Degraded",
"appliance_1_raidgroup_-_disks":
"252: 0 252: 1 252: 2 252: 3 252: 4 252: 5 252: 6 ",
"appliance_1_raidgroup_-_write policy": "Write Back"}:
```

## MIB (Management Information Base) について

SNMP の各要素は、それぞれ独自の特性を備えた特定のオブジェクトを管理します。各オブジェクトと特性には、一意のオブジェクト識別子 (OID) が関連付けられています。各 OID は、小数点によって区切られた数字 (1.3.6.1.4.1.48328.1 など) で構成されています。

これらの OID はツリーを形成します。MIB は、読み取り可能なラベルと、オブジェクトに関連するさまざまなパラメータを持つ各 OID に関連付けられています。MIB は、SNMP メッセージの生成や解釈に使われるデータ辞書として機能します。この情報は MIB ファイルとして保存されます。

Web コンソールの [設定 (Settings)] > [通知 (Notification)] > [アラートの構成 (Alert Configuration)] ページから、SNMP の MIB ファイルの詳細を調べることができます。ハードウェア監視関連のトラップを受信するようにアプライアンスの SNMP マネージャを設定するには、[SNMP サーバーの構成 (SNMP Server Configuration)] ページの [SNMP の MIB ファイルを表示 (View SNMP MIB file)] をクリックします。

アプライアンスのシェルメニューで Settings > Alerts > SNMP ShowMIB コマンドを使用して SNMP の MIB ファイルを表示することもできます。

p.36 の「[MIB \(Management Information Base\) ファイルについて](#)」を参照してください。

## [設定 (Settings)]>[通知 (Notification)]>[アラートの構成 (Alert configuration)]

[設定 (Settings)]>[通知 (Notification)]>[アラートの構成 (Alert configuration)] ページによって、SNMP、SMTP、コールホームのアラート通知を有効にできる単一の場所が提供されます。ページは 3 つのセクションに分かれています。各セクションは、それぞれ [SNMP]、[SMTP]、[コールホーム (Call Home)] 警告通知の詳細を説明しています。

[警告の構成 (Alert Configuration)] の下に、[通知の間隔 (Notification Interval)] フィールドがあります。SNMP と SMTP の構成の場合は、通知から次の通知の間隔を分単位で入力する必要があります。時間間隔は 15 の倍数で、ゼロ以外にします。

### SNMP の構成

表 1-1 に、[SNMP] セクションのフィールドを示します。

表 1-1 SNMP サーバーの設定

フィールド	説明
SNMP の警告を有効化 (Enable SNMP Alert)	SNMP の警告の設定を有効にするには、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

フィールド	説明
SNMP サーバー (SNMP Server)	<p>SNMP サーバーのホスト名を入力します。このコンピュータを定義するためのホスト名または IP アドレスを入力できます。IP アドレスは、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。</p> <p>アプライアンスで生成される警告またはトラップの通知は、この SNMP マネージャに送信されます。</p> <p><b>メモ:</b> NetBackup Appliance は市場に提供されているすべての SNMP サーバーをサポートします。ただし、ManageEngine™ SNMP サーバーと HP OpenView SNMP サーバーは、バージョン 2.6 に対してテスト認定済みです。</p>
SNMP ポート (SNMP Port)	<p>SNMP サーバーのポート番号を入力します。この変数に何も入力しなければ、デフォルトポートは 162 です。</p> <p><b>メモ:</b> ファイアウォールで、このポートを介してアプライアンスから SNMP サーバーにアクセスできるようにする必要があります。</p>
SNMP コミュニティ (SNMP Community)	<p>アラートまたはトラップを送信するコミュニティを入力します。たとえば「バックアップレポート部門」などです。</p> <p>SNMP サーバーで構成した値を入力できます。たとえば、会社名です。会社名を開示しないようにする場合のために、admin_group、public、private などのシステム定義の値が用意されています。何も入力しなければ、デフォルト値は public です。</p>

p.9 の「SNMP トラップの例」を参照してください。

SNMP MIB ファイルは、SNMP メッセージの生成と解釈に使われるデータ辞書として機能します。SNMP を構成する場合は、SNMP トラップを解釈できるように監視ソフトウェアに MIB ファイルをインポートする必要があります。[SNMP サーバーの構成 (SNMP Server Configuration)] ペインから、SNMP MIB ファイルの詳細を確認できます。SNMP MIB ファイルの詳細を確認するには、[SNMP の MIB ファイルを表示 (View SNMP MIB file)] をクリックします。SNMP の MIB ファイルが開きます。

構成後にテスト用 SNMP トラップを送信する方法については、Veritas サポートの Web サイトで次のテクニカルノートを参照してください。

[www.veritas.com/docs/TECH208354](http://www.veritas.com/docs/TECH208354)

## SMTP の構成

SMTP メールサーバープロトコルは、電子メールの発信に使用します。NetBackup Appliance Web Console ([設定 (Settings)]、[アラートの構成 (Alert configuration)]、[SMTP サーバーの構成 (SMTP Server Configuration)] の順に選択) で、SMTP を構成できます。

## [設定 (Settings)]&gt;[通知 (Notification)]&gt;[アラートの構成 (Alert configuration)]

アプライアンスのシェルメニューで、次のコマンドを使用して SMTP サーバーを構成し、新しい電子メールアドレスを追加することもできます。

```
Main_Menu > Settings > Alerts > Email SMTP Add Server [Account]
[Password]。Serverは電子メールの送信に使う対象 SMTP サーバーのホスト名です。
[Account] と [Password] は省略可能なパラメータで、認証が必要な場合にアカウント名とアカウントパスワードを識別します。
```

詳しくは、関連するアプライアンスのマニュアルを参照してください。

表 1-2 に、NetBackup Appliance Web Consoleの[SMTP]セクションのフィールドを示します。

表 1-2 SMTP サーバーの構成の設定

フィールド	説明
SMTPサーバー (SMTP Server)	SMTP サーバーのホスト名を入力します。アプライアンスで生成される警告の通知は、この SMTP サーバーを使って送信されます。IP アドレスは、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。
ソフトウェア管理者の電子メール (Software Administrator Email)	Veritas NetBackup Appliance ソフトウェアに固有のソフトウェア警告を受信する、ソフトウェア管理者の電子メール ID を入力します。指定した電子メール ID に、次のソフトウェア状態の警告が送信されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 次のようなホストの情報 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ディスク情報</li> <li>■ バックアップ全体の状態</li> <li>■ 各クライアントの過去 7 回のバックアップ結果</li> </ul> </li> <li>■ カタログバックアップのディザスタリカバリファイルの電子メール</li> <li>■ パッチインストールの成功レポート</li> </ul>
ハードウェア管理者の電子メール (Hardware Administrator Email)	Veritas NetBackup Hardware Appliance に固有のハードウェアアラートを受信する、ハードウェア管理者の電子メール ID を入力します。たとえば、ardwareadmin@usergroup.com を入力します。
電子メールテスト (Email Test)	前述のフィールドで設定した電子メールアドレスに、テスト用電子メールが送信されます。テスト用電子メールが届かない場合は、エラーメッセージに従ってネットワーク接続、SMTP 設定、電子メール設定を確認するか、詳細についてシステム管理者に問い合わせてください。
送信者の電子メール (Sender Email)	アプライアンスが送信した警告またはレポートの応答を受信する電子メール ID を入力します。
SMTP アカウント (SMTP Account)	SMTP アカウントにアクセスするユーザー名を入力します。

フィールド	説明
パスワード (Password)	前述の SMTP ユーザーアカウントのパスワードを入力します。

プロキシサーバーまたはベリタスのコールホームサーバーに電子メールのレポートを送信するように、このサーバーを構成できます。

次のプロキシサーバーがサポートされます。

- Squid
- Apache
- TMG

---

**メモ:** プロキシ構成の NTLM 認証もサポートされます。

---

NetBackup Appliance 2.6.1.1 以降では、アプライアンスによって生成されるすべての電子メール通知に、同じ SMTP 設定を使います。この電子メールには、ハードウェア監視の通知および NetBackup ジョブの通知が含まれます。構成設定は、NetBackup Appliance Web Consoleの[設定 (Settings)] > [通知 (Notification)] > [アラートの構成 (Alert Configuration)]内または NetBackup Appliance Shell Menuの[Main\_Menu] > [設定 (Settings)] > [警告 (Alerts)]内にあります。この設定は、NetBackup ジョブの通知を送信するのに以前使った可能性のある以前の SMTP セットアップを上書きします。

---

**メモ:** NetBackup Appliance 2.6.1.1 にアップグレードする前にアプライアンス SMTP 設定をすでに構成した場合は、NetBackup がその設定を使えるように、再度構成を保存する必要があります。NetBackup Appliance Web Consoleでは、[設定 (Settings)] > [通知 (Notification)] > [アラートの構成 (Alert Configuration)]に移動して[保存 (Save)]をクリックします。または、NetBackup Appliance Shell Menuでは、[Main\_Menu] > [設定 (Settings)] > [警告 (Alerts)]に移動して SMTP 設定および SenderID 設定を再送信します。

---

## コールホームの構成

表 1-3 に、[コールホームの構成 (Call Home Configuration)]セクションのフィールドを示します。

表 1-3 コールホームの構成の設定

フィールド	説明
コールホームを有効にする (Enable Call Home)	コールホームの警告の構成を有効にするには、このチェックボックスにチェックマークを付けます。
プロキシサーバーを有効化 (Enable Proxy Server)	プロキシを有効にするには、このチェックボックスにチェックマークを付けます。
プロキシのトンネリングを有効にする (Enable Proxy Tunneling)	プロキシサーバーが SSL トンネリングをサポートしている場合は、このチェックボックスにチェックマークを付けます。
プロキシサーバー (Proxy Server)	プロキシサーバーの名前を入力します。
プロキシポート (Proxy Port)	プロキシサーバーのポート番号を入力します。
プロキシのユーザー名 (Proxy Username)	プロキシサーバーにログインするユーザー名を入力します。
プロキシのパスワード (Proxy Password)	プロキシサーバーにログインするユーザー名のパスワードを入力します。

コールホームを有効にしている場合は、[コールホームの構成 (Call Home Configuration)] 設定の下で利用可能な[コールホームのテスト (Test Call Home)]オプションをクリックすることで、コールホームが正しく動作しているかをテストできます。

**メモ:** [コールホームのテスト (Test Call Home)]オプションは、コールホームが有効な場合にも、NetBackup Appliance Web Consoleでアクティブになります。

次のプロキシサーバーがサポートされます。

- Squid
- Apache
- TMG

NTLM は、コールホームプロキシ設定のサポート対象の認証方法です。

## 警告の構成の設定の構成

ここでは、[設定 (Settings)] > [通知 (Notification)] > [警告の構成 (Alert Configuration)] ページを使って、SNMP、SMTP、およびコールホームのサーバー設定を構成する手順について説明します。

### SNMP、SMTP およびコールホームのサーバー設定を構成する方法

- 1 NetBackup Appliance Web Console にログインします。
- 2 [設定 (Settings)] > [通知 (Notification)] > [アラートの構成 (Alert configuration)] をクリックします。  
[アラートの構成 (Alert configuration)] ページが表示されます。  
[アラートの構成 (Alert configuration)] ページは 3 つのセクションに分割され、各セクションで [SNMP]、[SMTP]、[コールホーム (Call Home)] の有効化と詳細情報の提供を行います。
- 3 [通知の間隔 (Notification Interval)] フィールドには、[SNMP]、[SMTP]、[コールホーム (Call Home)] のアラートの構成に対する、2 つの連続する通知の間隔を分単位で入力します。
- 4 SNMP の設定を表示されたフィールドに入力します。SNMP パラメータの説明は、表 1-1 で入手できます。
- 5 SMTP の設定を提供されたフィールドに入力します。SMTP パラメータの説明は、表 1-2 で入手できます。  
アプライアンスはグローバルサーバー設定を使って、指定された SMTP サーバーに電子メール通知を送信します。
- 6 コールホームの設定を提供されたフィールドに入力します。コールホームのパラメータの説明は、表 1-3 で入手できます。
- 7 [保存 (Save)] をクリックして、SNMP、SMTP、およびコールホームの設定を保存します。

## 電子メール通知について

NetBackup Appliance には、ハードウェアエラーが検出されたときにローカル管理者に電子メールを送信する機能があります。NetBackup Appliance Web Console の [設定 (Settings)] > [通知 (Notification)] > [アラートの構成 (Alert configuration)] ページで、ハードウェアの故障の通知に使う電子メールアドレスを設定できます。NetBackup Appliance Shell Menu のコマンドを使うこともできます。電子メールの内容から、起きたハードウェア障害の種類と故障の状態を特定します。

NetBackup Appliance Shell Menu を使って電子メールアドレスを構成する方法について詳しくは、関連するアプライアンス向けのマニュアルを参照してください。

ハードウェアの故障時に送信される電子メール通知の例を以下に示します。

## このマニュアルについて

このマニュアルでは、Veritas NetBackup Appliance のソフトウェアバージョン 3.1 と 3.1.1 で使われる SNMP コミュニティトラップを紹介しします。

また、ハードウェアの SNMP アラートを受信した場合のトラブルシューティング手順についてもいくつか説明します。

このガイドを利用すると、次のタスクを実行できます。

- 一意のオブジェクト ID (OID) を使用してハードウェアトラップを特定します。
- エラーが発生したときに、SNMP 通知を受信するようにアプライアンスを構成します。
- 関連するハードウェアトラップを参照することで、原因となる問題を識別するための関連情報を特定します。
- 手順を実装してハードウェアの問題を解決します。

---

**メモ:** このマニュアルに記載されていない SNMP トラップからのアラートを受信した場合は、Veritas テクニカルサポートに問い合わせてください。

---

# SNMP ハードウェアトラップ

この章では以下の項目について説明しています。

- [vrtsadapterTrap](#)
- [vrtsbbuTrap](#)
- [vrtsconnectionTrap](#)
- [vrtscpuTrap](#)
- [vrtsdiskTrap](#)
- [vrtsfanTrap](#)
- [vrtsfirmwareTrap](#)
- [vrtsnetworkcardTrap](#)
- [vrtspartitionTrap](#)
- [vrtspowerTrap](#)
- [vrtssraidgroupTrap](#)
- [vrtssstoragestatusTrap](#)
- [vrtssystemName](#)
- [vrtstemperatureTrap](#)
- [vrtsvolumeTrap](#)
- [vrtsclosurediskTrap](#)
- [vrtsclosurefanTrap](#)
- [vrtsclosurepowerTrap](#)

- [vrtsclosuretemperatureTrap](#)
- [vrtsdimmTrap](#)
- [vrtsiscsiTrap](#)
- [vrtsethernetTrap](#)

## vrtsadapterTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.14

メモ: vrtsadapterTrap は、NetBackup 52xx Appliance にのみ適用されます。

### 説明

vrtsadapterTrap は、NetBackup Appliance アダプタ (RAID コントローラ) の状態を監視します。アラートを受信する場合は、アダプタのいずれかが最適な状態でないことを示します。

### 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-1 vrtsadapterTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
[アダプタの状態 (Adapter Status)]が[NOT OK]で、アダプタが失敗しました。	Veritasサポートに連絡してアダプタを交換します。
[BBUの状態 (BBU Status)]が[NOT OK]で、現在の[チャージ (Charge)]が[NULL]で、ファームウェアは現在のチャージを報告できませんでした。	次回のコールホーム期間まで 15 分間待ってステータスを再び調べます。問題が解決した場合は、エラーは無視できます。 問題が解決していない場合は、Veritasサポートに問い合わせてください。
5200/5220 のみ: [BBUの状態 (BBU Status)]が[NOT OK]で、現在の[チャージ (Charge)]が 67 未満または 130 より大きく、アダプタのバッテリバックアップ装置 (BBU) が失敗しそうになっています。	Veritasサポートに連絡してアダプタの BBU を交換します。

# vrtsbbuTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.19

メモ: vrtsbbuTrap は、NetBackup 53xx のアプライアンスにのみ適用されます。

## 説明

vrtsbbuTrap は、使用しているアプライアンスのプライマリストレージシェルフに装備されているバッテリーバックアップ装置 (BBU) の状態を監視します。アラートが表示された場合は BBU でエラーが発生しており、ストレージシステムのパフォーマンス低下の原因になっている可能性があります。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。アプライアンスの Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップと電子メールアラートの情報に基づいて次の処理のいずれかを実行します。

表 2-2 vrtsbbuTrap の手順

発生事項	まず始めに行うこと
BBU の [状態 (Status)] が [バッテリー切れ (Battery expired)] または [バッテリー低下 (Near expiration)] で、BBU のバッテリーが切れているか、または切れそうになっています。	Veritas サポートに連絡して BBU を交換します。
BBU の [状態 (Status)] が [バッテリーが高温 (Battery over temperature)] で、BBU が最大温度のしきい値を超えています。	サポートが必要な場合は Veritas サポートに問い合わせてください。
BBU の [状態 (State)] が [警告 (Warning)] で、[状態 (Status)] が [バッテリーの放電/再充電中 (Battery learning)] または [バッテリーのメンテナンス充電中 (Battery maintenance charging)] になっていて、BBU は放電/再充電サイクル中またはメンテナンス充電サイクル中です。	放電/再充電サイクルまたはメンテナンス充電サイクルが完了するまで待ちます。それでも警告が表示される場合は Veritas サポートに問い合わせてください。
BBU の [状態 (State)] が [失敗 (Failed)] で、[状態 (Status)] が [失敗 (Failed)] または [バッテリーの交換が必要 (Battery replacement required)] になっていて、BBU が機能していません。	Veritas サポートに連絡して BBU を交換します。

発生事項	まず始めに行うこと
BBU の[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]で、[状態 (Status)]が[削除済み (Removed)]になっている、BBU が存在しません。	サポートが必要な場合はVeritasサポートに問い合わせてください。
BBU の[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]で、[状態 (Status)]が[権限なし (Not authorized)]または[バッテリーの設定が不整合 (Battery settings mismatch)]になっている、構成に問題があります。	サポートが必要な場合はVeritasサポートに問い合わせてください。
BBU の[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]で、[状態 (Status)]が[使用不可 (Not available)]になっている、ファームウェアが現在の状態を報告できていません。	次のコールホーム期間まで待って状態を再び調べます。問題が解決した場合は、エラーは無視できます。問題が解決していない場合は、Veritasサポートに問い合わせてください。

## vrtscconnectionTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.20

---

メモ: vrtscconnectionTrap は、NetBackup 53xx のアプライアンスにのみ適用されます。

---

### 説明

vrtscconnectionTrap は、アプライアンス、プライマリストレージシェルフ、拡張ストレージシェルフ間の接続の状態を監視します。アラートを受信する場合は、ケーブルのうち 1 つ以上が正しく取り付けられていないか、機能していないことを意味します。

### 解決法

アプライアンスとプライマリシェルフ間のファイバーチャネル接続と、プライマリシェルフと拡張シェルフ間の SAS 接続を確認します。すべてのケーブルが正しく取り付けられていて機能している場合は、Veritasサポートに問い合わせてください。

## vrtscpuTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.7

### 説明

vrtscpuTrap は、アプライアンスの CPU の状態を監視します。アラートが表示された場合は、CPU が正しく機能していないか、電圧がしきい値を超えたことを示しています。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。アプライアンスの Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-3 vrtscpuTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
CPU の [状態 (Status)] が [Null (NULL)] の場合、ファームウェアが現在の状態を報告できていません。	次のコールホーム期間まで 15 分間待ってステータスを再び調べます。問題が解決した場合は、エラーは無視できます。  問題が解決していない場合は、Veritas サポートに問い合わせてください。
CPU の [状態 (State)] が [失敗 (Failed)] で [状態 (Status)] が [OK] か [ProcPresent] 以外の場合、CPU の状態は不明です。	サポートが必要な場合は Veritas サポートに問い合わせてください。
5230 および 53xx のみ: CPU の [状態 (State)] が [失敗 (Failed)] であり、現在の [電圧 (Voltage)] がしきい値の上限である 1.51 ボルトを超えている場合、CPU の電圧が高すぎます。	アプライアンスの電源の状態を調べます。アプライアンスの環境の温度を調べます。両方共正常な場合、Veritas サポートに問い合わせてください。
5230 および 53xx のみ: CPU の [状態 (State)] が [失敗 (Failed)] であり、現在の [電圧 (Voltage)] がしきい値の下限である 0.54 ボルトを下回っている場合、CPU の電圧が低すぎます。	アプライアンスの電源の状態を調べます。アプライアンスの環境の温度を調べます。両方共正常な場合、Veritas サポートに問い合わせてください。

## vrtsdiskTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.8

### 説明

vrtsdiskTrap は、アプライアンスディスクの状態を監視します。アラートが表示された場合は、ディスクのいずれかに障害が起きたことを示しています。

### 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。アプライアンスの Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMPトラップ、電子メールアラート、または[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-4 vrtsdiskTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
ディスクの[状態 (State)]が[警告 (Warning)]であり、[状態 (Status)]が[未設定 (良好) (Unconfigured (Good))]の場合、ディスクは外部であり、サポートされていない状態です。ディスクが再挿入され、障害が起きた可能性があります。	Veritasサポートに問い合わせてください。次のメッセージと一緒に、障害を知らせます。 外部設定のインポート (Import foreign configuration)
5220 と 5230 のみ: ディスク 7 の[状態 (State)]が[警告 (Warning)]であり、[状態 (Status)]が[ホットスペア (Hot spare)]以外の場合、その他のディスクのいずれかに障害が起き、ホットスペアを再構築する必要があります。	Veritasサポートに連絡して欠陥ディスクを交換します。
ディスクの[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]であり、[状態 (Status)]が[未設定 (不良) (Unconfigured (Bad))]の場合、ディスクは機能していません。	Veritasサポートに連絡して欠陥ディスクを交換します。
ディスクの[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]であり、[状態 (Status)]が[オフライン (Offline)]の場合、ディスクはオフラインです。	サポートが必要な場合はVeritasサポートに問い合わせてください。
ディスクの[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]であり、[状態 (Status)]が[失われた (Missing)]、[見つからない (Not Found)]、[削除 (Removed)]の場合、ディスクを検出できません。	ディスクが正しく装着されており、アプライアンスが完全に取り付けられていることを確認します。
53xx のみ: ディスクの[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]であり、[状態 (Status)]が[応答しない (Unresponsive)]の場合、ディスクは存在しますが、応答していません。	サポートが必要な場合はVeritasサポートに問い合わせてください。
53xx のみ: ディスクの[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]であり、[状態 (Status)]が[不適合 (Incompatible)]の場合、ディスクにアプライアンスとの互換性がありません。	ディスクを互換性のあるディスクに交換します。サポートが必要な場合、Veritasサポートに問い合わせてください。
53xx のみ: ディスクの[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]であり、[状態 (Status)]が[冗長性なし (Loss of redundancy)]の場合、ディスクのアクセスは冗長化されていません。	サポートが必要な場合はVeritasサポートに問い合わせてください。

# vrtsfanTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.3

## 説明

vrtsfanTrap は、アプライアンスファンの状態を監視します。アラートが表示された場合は、システムファンの 1 つ以上にエラーが起きたことを示しています。ファンが動作を停止したか、ファンの rpm が、システムが正しく機能するために必要なしきい値を超えました。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。アプライアンスの Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-5 vrtsfanTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
ファンの [状態 (State)] が [警告 (Warning)] の場合、ファンの動作は下限のしきい値である 1715 rpm よりも低速です。	システムの温度を確認します。電源を調べます。両方とも正常な場合、Veritas サポートに連絡してファンを交換します。
ファンの [状態 (State)] が [失敗 (Failed)] の場合、ファンが存在しないか、エラーが起きました。	Veritas サポートに連絡してファンを交換します。

# vrtsfirmwareTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.15

## 説明

vrtsfirmwareTrap は、アプライアンスのファームウェアを追跡する情報トラップです。アラートはトリガしません。

# vrtsnetworkcardTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.17

## 説明

vrtspartitionTrap は、アプライアンスに取り付けられているネットワークカードを追跡する情報トラップです。アラートはトリガしません。

# vrtspartitionTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.21

## 説明

vrtspartitionTrap は、アプライアンスのストレージパーティションの状態を監視します。アラートを受信する場合は、パーティションのディスク使用状況が高すぎるか、エラーが発生していることを意味します。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。アプライアンスの Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップと電子メールアラートの情報に基づいて次の処理のいずれかを実行します。

表 2-6 vrtspartitionTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
パーティションの使用状況が致命的なしきい値を超過し、空き容量がほとんどありません。	パーティションをクリーンアップして再度状態を確認します。問題が解決していない場合は、Veritas サポートにお問い合わせください。
パーティションの使用状況が警告のしきい値を超過し、もうすぐ空き容量がなくなります。	パーティションをクリーンアップして再度状態を確認します。問題が解決していない場合は、Veritas サポートにお問い合わせください。
パーティションの機能が低下しています。	1 つ以上のストレージシェルフで、ディスクエラーまたは電源の中断がないかを確認します。問題が解決しない場合は、Veritas サポートにお問い合わせください。
パーティションにアクセスできません。	1 つ以上のストレージシェルフで、ディスクエラーまたは電源の中断がないかを確認します。問題が解決しない場合は、Veritas サポートにお問い合わせください。

# vrtspowerTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.4

## 説明

vrtspowerTrap は、アプライアンスの電源の状態を監視します。アラートが表示された場合は、電源のいずれかにエラーが起きたことを示しています。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-7 vrtspowerTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
電源の [状態 (Status)] が [AC 電源なし (Power Supply AC lost)] の場合、冗長電源が機能していません。電源が動作を停止したか、電源に接続されていません。	電源ケーブルを調べます。電源が接続されており、ケーブルが機能している場合、Veritas サポートに連絡して電源を交換します。
電源の [状態 (State)] が [警告 (Warning)] であり、現在の [ワット数 (Wattage)] が 920 ワットの上限のしきい値を超えている場合、電源は過剰に電力を使っています。	Veritas サポートに連絡して電源を交換します。
電源の [状態 (State)] が [警告 (Warning)] であり、現在の [ワット数 (Wattage)] が定義されていない場合、ファームウェアが現在の状態を報告できていません。	次のコールホーム期間まで 15 分間待ってステータスを再び調べます。問題が解決した場合は、エラーは無視できます。 問題が解決していない場合は、Veritas サポートに問い合わせてください。
電源の [状態 (State)] が [失敗 (Failed)] の場合、ファームウェアが現在の状態を報告できていません。	次のコールホーム期間まで 15 分間待ってステータスを再び調べます。問題が解決した場合は、エラーは無視できます。 問題が解決していない場合は、Veritas サポートに問い合わせてください。

# vrt RAIDgroupTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.9

## 説明

vrtssraidgroupTrap は、オペレーティングシステムディスクとストレージディスク内のアプライアンス RAID グループの状態を監視します。アラートが表示された場合は、RAID グループのいずれかが最適な状態にないことを示しています。書き込みポリシーが書き込みスルーモードにあるか、RAID グループ内の 1 つ以上のディスクに障害が起きています。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Web コンソールの[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-8 vrtssraidgroupTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
RAID の[状態 (State)]が[警告 (Warning)]で [状態 (Status)]が[低下 (Degraded)]か[部分的に低下 (Partially Degraded)]の場合、RAID グループ内の 1 つ以上のディスクに障害が起きています。	さらにディスク障害が起きて RAID ボリュームが破損する前に、Veritas サポートに連絡して欠陥ディスクを交換します。
RAID の[状態 (State)]が[警告 (Warning)]であり、[ホットスペアの可用性 (Hot spare available)]が[いいえ (No)]の場合、ホットスペアディスクは使用できません。それらに障害が起きたか、別のディスクに障害が起きたため、ホットスペアを再構築する必要があります。	ディスクの状態を調べます。ディスクに障害が起きた場合、Veritas サポートに連絡して欠陥ディスクを交換します。  ディスクに障害が起きておらず、ディスクのいずれかの[状態 (Status)]が[未設定 (良好) (Unconfigured (Good))]の場合、そのディスクでコピーバック処理が自動的に開始しなかった場合は開始します。サポートが必要な場合、Veritas サポートに問い合わせてください。
RAID の[状態 (State)]が[警告 (Warning)]であり、[書き込みポリシー (Write Policy)]が[書き込みスルー (Write Through)]の場合、キャッシュが無効になっています。BBU (バッテリーバックアップ装置) の再学習サイクルがオンになっているか、書き込みポリシーが正しく設定されなかったか、BBU に欠陥があります。	アダプタの状態を調べます。アダプタに警告または障害が起きていない場合、Veritas サポートに問い合わせてください。
RAID の[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]で [状態 (Status)]も[失敗 (Failed)]の場合、RAID はオフラインになっているか機能していません。	サポートが必要な場合は Veritas サポートに問い合わせてください。

発生事項	まず始めに行うこと
RAID の[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]で[状態 (Status)]が[不明 (Unknown)]の場合、ファームウェアが現在の状態を報告できていません。	次のコールホーム期間まで 15 分間待ってステータスを再び調べます。問題が解決した場合は、エラーは無視できます。  問題が解決していない場合は、Veritasサポートにお問い合わせください。
RAID の[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]で[状態 (Status)]が[失われた (Missing)]の場合、RAID グループ内のすべてのディスクがアレイから削除されています。RAID グループは動作しておらず、エクスポートできません。	サポートが必要な場合はVeritasサポートにお問い合わせください。
RAID の[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]であり、[状態 (Status)]が[不定 - インポート準備中 (Contingent - preparing for import)]の場合、RAID グループは完成していません。グループは完成すると見られるものの、確実ではなく、インポートに使用できません。	サポートが必要な場合はVeritasサポートにお問い合わせください。
RAID の[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]であり、[状態 (Status)]が[エクスポート済み - インポート準備済み (Exported - ready for import)]または[強制 - インポート準備済み (Forced - ready for import)]の場合、RAID グループはエクスポート済みの状態にあり、インポート準備ができています。	サポートが必要な場合はVeritasサポートにお問い合わせください。

## vrtssstoragestatusTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.22

**メモ:** vrtssstoragestatusTrap は、ソフトウェアリリース 2.7.1、2.7.2、2.7.3 の NetBackup 53xx アプライアンスにのみ適用されます。

### 説明

vrtssstoragestatusTrap は、アプライアンスストレージシステム全体の状態を監視します。アラートが表示された場合はストレージシステムでエラーが発生しています。

**メモ:** [ストレージ状態 (Storage Status)]のエラーや警告を承認して通知を非表示にすることはできません。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。管理 Web UI の[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

電子メールアラートの情報に基づいて次の処理のいずれかを実行します。

シェルメニューでこの問題を解決するには

- 1 コマンド `Monitor > Hardware ShowHealth` を使用します。
- 2 [プライマリストレージシェルフ (Primary Storage Shelf)] セクションと [拡張ストレージシェルフ (Expansion Storage Shelf)] セクションを参照します。
- 3 すべてのコンポーネントの状態を確認します。
  - エラーが見つかったら、アプライアンスの関連ドキュメントを参照して問題を解決する。
  - エラーが見つからず、ストレージの状態が最適にならない場合にサポートが必要であれば、Veritas テクニカルサポートに連絡してください。

Web コンソールでこの問題を解決するには

- 1 [監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページに移動します。
- 2 NetBackup Storage Shelf の [概略 (Summary)] で、すべてのコンポーネントの状態を確認します。
  - エラーが見つかったら、ハードウェアコンポーネントのアイコンをクリックして詳細を確認し、Veritas Help Center でトラブルシューティング情報を見つける。
  - エラーが見つからず、ストレージの状態が最適にならない場合にサポートが必要であれば、Veritas テクニカルサポートに連絡してください。

## vrtssystemName

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.1

### 説明

vrtssystemName トラップは、アプライアンスのホスト名を追跡する情報トラップです。アラートはトリガしません。

## vrtstemperatureTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.6

## 説明

vrtstemperatureTrap は、アプライアンスの温度を監視します。アラートが表示された場合、温度がしきい値を超えたか、センサーのいずれかが動作を停止したことを示しています。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-9 vrtstemperatureTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
<p>温度の [状態 (State)] が [警告 (Warning)] であり、現在の温度計が 0.000 °C を示している場合、温度は下限のしきい値を下回っているか、ファームウェアが現在の温度を報告できていません。</p>	<p>10 分間待機し、状態を再確認します。問題が解決した場合は、エラーは無視できます。</p> <p>問題が解決していない場合は、Veritas サポートに問い合わせてください。</p>
<p>温度の [状態 (State)] が [警告 (Warning)] であり、現在の温度計が上限の温度しきい値を超えている場合、温度が高すぎます。アプライアンスの温度センサーの上限のしきい値の値を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 吸気口の温度: 64 °C</li> <li>■ 排気口の温度: 85 °C</li> <li>■ P1 と P2 温度マージン: -15 °C</li> </ul>	<p>アプライアンスファンの状態を調べます。アプライアンスの環境の温度を調べます。両方共正常な場合、Veritas サポートに問い合わせてください。</p>
<p>温度の [状態 (State)] が [警告 (Warning)] であり、現在の温度計が下限の温度しきい値を下回っている場合、温度が低すぎます。アプライアンスの温度センサーの下限のしきい値の値を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 吸気口の温度: 0 °C</li> <li>■ 排気口の温度: 0 °C</li> <li>■ P1 と P2 温度マージン: -128 °C</li> </ul>	<p>10 分間待機し、状態を再確認します。問題が解決した場合は、エラーは無視できます。</p> <p>問題が解決していない場合は、Veritas サポートに問い合わせてください。</p>

# vrtsvolumeTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.18

メモ: vrtsvolumeTrap は、NetBackup 53xx Appliance にのみ適用されます。

## 説明

vrtsvolumeTrap は、アプライアンスボリュームの状態を監視します。アラートを受信する場合は、ディスクエラーが原因でボリュームが最適な状態でないことを示します。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

アプライアンスでボリューム関連のエラーが発生した場合は、SNMP トラップと、構成済みのアドレスに送信される電子メールアラートの情報に基づいて、テクニカルサポートに連絡してサポートを依頼する必要があります。

# vrtsclosediskTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.13

## 説明

vrtsclosediskTrap は、ストレージシェルフのディスクの状態を監視します。アラートが表示された場合は、ディスクのいずれかに障害が起きたことを示しています。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-10 vrtsclosediskTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
ディスクの [状態 (State)] が [警告 (Warning)] であり、[状態 (Status)] が [未設定 (良好) (Unconfigured (Good))] の場合、ディスクは外部であり、サポートされていない状態です。ディスクが再挿入され、障害が起きた可能性があります。	Veritas サポートに問い合わせてください。次のメッセージと一緒に、障害を知らせます。 外部設定のインポート (Import foreign configuration)

発生事項	まず始めに行うこと
Veritas ストレージシェルフ (52xx) のみ: ディスク 16 の [状態 (State)] が [警告 (Warning)] で、 [状態 (Status)] が [ホットスペア (Hot spare)] 以外で、その他のディスクのいずれかでエラーが発生しており、ホットスペアを再構築する必要があります。	Veritas サポートに連絡して欠陥ディスクを交換します。
ディスクの [状態 (State)] が [失敗 (Failed)] であり、 [状態 (Status)] が [未設定 (不良) (Unconfigured (Bad))] の場合、ディスクは機能していません。	Veritas サポートに連絡して欠陥ディスクを交換します。
ディスクの [状態 (State)] が [失敗 (Failed)] であり、 [状態 (Status)] が [オフライン (Offline)] の場合、ディスクはオフラインです。	サポートが必要な場合は Veritas サポートに問い合わせてください。
ディスクの [状態 (State)] が [失敗 (Failed)] で、 [状態 (Status)] が [存在しない (Missing)] または [見つからない (Not Found)] で、ディスクを検出できません。	ディスクが正しく取り付けられていて、ストレージシェルフに完全に固定されていることを確認します。

## vrtssenclosurefanTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.10

### 説明

vrtssenclosurefanTrap は、ストレージシェルフファンの状態を監視します。アラートが表示された場合は、システムファンの 1 つ以上にエラーが起きたことを示しています。ファンが動作を停止したか、ファンの rpm が、システムが正しく機能するために必要なしきい値を超えました。

### 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Web コンソールの [監視 (Monitor)]、 [ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または [監視 (Monitor)]、 [ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-11 vrtsclosurefanTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
ファンの[状態 (State)]が[警告 (Warning)]の場合、ファンの動作は下限のしきい値である 2000 rpm よりも低速です。 <b>メモ:</b> 2000 rpm の下限のしきい値は、Veritas ストレージセルフ (52 xx アプライアンス) のみに適用されます。vrtsclosurefanTrap は、NetBackup 53xx アプライアンスのプライマリまたは拡張ストレージセルフのしきい値の下限値を含みません。	システムの温度を確認します。電源を調べます。両方とも正常な場合、Veritas サポートに連絡してファンを交換します。
ファンの[状態 (State)]が[失敗 (Failed)]の場合、ファンが存在しないか、エラーが起きました。	Veritas サポートに連絡してファンを交換します。

## vrtsclosurepowerTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.11

### 説明

vrtsclosurepowerTrap は、アプライアンスの電源の状態を監視します。アラートが表示された場合は、電源のいずれかにエラーが起きたことを示しています。電源が動作を停止したか、電源に接続されていません。

### 解決法

電源ケーブルを調べます。電源が接続されており、ケーブルが機能している場合、Veritas サポートに連絡して電源を交換します。

## vrtsclosuretemperatureTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.12

### 説明

vrtsclosuretemperatureTrap は、アプライアンスのストレージセルフの温度を監視します。アラートが表示された場合、温度がしきい値を超えたか、センサーのいずれかが動作を停止したことを示しています。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページの情報に基づいて、次の処理のいずれかを実行します。

表 2-12 vrtsclosuretemperatureTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
<p>温度の [状態 (State)] が [警告 (Warning)] であり、現在の温度計が 0.000 °C を示している場合、温度は下限のしきい値を下回っているか、ファームウェアが現在の温度を報告できていません。</p>	<p>次のコールホーム期間まで 15 分間待ってステータスを再び調べます。問題が解決した場合は、エラーは無視できます。</p> <p>問題が解決していない場合は、Veritas サポートに問い合わせてください。</p>
<p>温度の [状態 (State)] が [警告 (Warning)] であり、現在の温度計が上限の温度しきい値を超えている場合、温度が高すぎます。52xx アプライアンスのストレージシェルフの温度センサーに対する上限のしきい値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ I/O モジュール: 75 °C</li> <li>■ バックプレーン: 51 °C</li> <li>■ PSU: 75 °C</li> </ul> <p><b>メモ:</b> 上限のしきい値は、Veritas ストレージシェルフ (52xx アプライアンス) のみに該当します。vrtsclosuretemperatureTrap には、NetBackup 53xx Appliance のプライマリまたは拡張ストレージシェルフに対する上限のしきい値は含まれません。</p>	<p>ストレージシェルフのファンの状態を確認します。ストレージシェルフの環境の温度を確認します。両方共正常な場合、Veritas サポートに問い合わせてください。</p>

## vrtsdimmTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.23

### 説明

vrtsdimmTrap は DIMM (Dual In-line Memory Module) の状態を監視します。アラートが通知された場合、DIMM のいずれかが最適な状態にないか、これまで最適な状態ではなかったことを示します。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Web コンソールの[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] ページも調べることができます。

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます(例えばスロット ID、修正不能なエラーの数)。シェルメニューの Monitor > Hardware ShowHealth Appliance DIMM コマンドも調べることができます。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または Monitor > Hardware ShowHealth Appliance DIMM コマンドによる情報に基づいて、次の処理を実行します。

表 2-13 vrtsdimmTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
DIMM の[状態 (Status)]が[失敗 (Failed)]で、DIMM に修正不能なエラーが発生して交換する必要があります。	ベリタスサポートに連絡して DIMM を交換します。

# vrtsiscsiTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.24

## 説明

vrtsiscsiTrap は、NetBackup 5240 アプライアンスの iSCSI 接続を監視します。これは NetBackup 5240 アプライアンスの構成 H のみに適用されます。このアラートを受信する場合は、ターゲットとの iSCSI セッションの 1 つ以上が切断されたことを意味します。

## 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。Settings > iSCSI > Target Show Connected コマンドを実行し Status 列をチェックして、状態が Offline であることを確認します。

SNMP トラップ、電子メールアラート、または Settings > iSCSI > Target Show Connected コマンドによる情報に基づいて、次の処理を実行します。

表 2-14 vrtsiscsiTrap の手順

発生事項	まず始めに行うこと
ターゲットとの iSCSI セッションの 1 つ以上が不通または切断されました。	<p>ネットワークの問題または現在の統計をチェックしてください。Settings &gt; iSCSI &gt; Interface Show コマンドを実行して、iSCSI インターフェイスのプロパティを表示します。IP アドレス、ネットマスクなどのプロパティが有効かをチェックします。</p> <p>Settings &gt; iSCSI &gt; Target Show Connected コマンドを実行し、接続済みのターゲットを表示することもできます。検出されたターゲットに接続するには、Settings &gt; iSCSI &gt; Target Connect コマンドを実行します。</p>

## vrtsethernetTrap

OID: 1.3.6.1.4.1.48328.3.9.1.25

### 説明

vrtsethernetTrap は、NetBackup アプライアンス上の 10 Gb イーサネット/iSCSI カードでサポート対象外の SFP (Small Form-Factor Pluggable) モジュールを監視します。このアラートが表示された場合、1 つ以上のサポート対象外の SFP モジュールが 10 Gb イーサネット/iSCSI カードに挿入されていることを示します。

### 解決法

受信した SNMP トラップや電子メールアラートを調べると、発生した問題を正確に特定するために役立つ追加情報を得ることができます。現在の SFP を点検し、それらが QLogic 製かどうかを調べます。QLogic SFP+ モジュールのみがサポートされます。必要に応じて、10 Gb イーサネット/iSCSI カードに QLogic SFP+ モジュールを設置します。

SNMP トラップ、電子メールアラートによる情報に基づいて、または物理 SFP モジュールを点検した後に、次の処理を実行します。

表 2-15 vrtsethernetTrap の次の手順

発生事項	まず始めに行うこと
1 つ以上のサポート対象外の SFP モジュールが 10 Gb イーサネット/iSCSI カードに挿入されています。	10 Gb イーサネット/iSCSI カードにサポート対象の QLogic SFP+ モジュールを設置します。

# MIB (Management Information Base) ファイルのコンテンツ

この付録では以下の項目について説明しています。

- [MIB \(Management Information Base\) ファイルについて](#)

## MIB (Management Information Base) ファイルについて

アプライアンス上の MIB (Management Information Base) ファイルには、アプライアンスを監視するために設定された通知トラップが含まれます。

アプライアンスのシェルメニューで `Settings > Alerts > SNMP ShowMIB` コマンドを使用して MIB ファイルの内容を表示できます。

---

**メモ:** MIB ファイルにはソフトウェアトラップが含まれますが、それらは使用されません。現時点ではアプライアンスからソフトウェアトラップは送信されません。

---

**メモ:** トラップの状態に注目します。状態が[現在 (Current)]になっているトラップのみが監視対象となり、状態が[廃止 (Obsolete)]のトラップは、現在のアプライアンスリリースに対しては機能しません。

---

次のリンクに、アプライアンスの MIB ファイルのサンプルを示します。

「[MIB \(Management Information Base\) ファイルについて](#)」